

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	幸田 裕一
論文担当者	主査 竹村 基彦
	副査 山本 新吾
	副査 池田 正孝
学位論文名	Irinotecan and gemcitabine as second-line treatment in patients with malignant pleural mesothelioma following platinum plus pemetrexed chemotherapy: A retrospective study (既治療悪性胸膜中皮腫に対する2nd-line CPT-11+ gemcitabine の後ろ向き検討)
論文審査の結果の要旨	
<p>悪性胸膜中皮腫(MPM)の現在の標準的一次治療はシスプラチン・ペメトレキセドの併用療法であるが、この治療法に不応となった場合の2次治療には標準が定められていない。本研究はシスプラチン・ペメトレキセド不応 MPM の2次治療としてのイリノテカン(CPT-11)・ゲムシタビン(GEM)併用療法についての後ろ向き研究である。</p> <p>切除不能 MPM と診断され、シスプラチン・ペメトレキセド又はカルボプラチン・ペメトレキセド併用療法又はペメトレキセド単剤治療を受けて再発し、CPT-11/GEM 併用療法を受けた2008年から2017年までの入院患者62名を対象とした。</p> <p>有効性は、部分奏功(PR) 1例、病勢維持(SD) 40例、病勢進行(PD) 21例で、奏効率(ER)は1.6%、病勢制御率(DCR)は66.1%であった。無増悪生存期間の中央値は5.7ヶ月、全生存期間の中央値は11.3ヶ月であった。既報の臨床試験で他の治療法と比較すると、有効率はビノレルビン(VNR)の単剤又は GEM との併用、スニチニブ単剤による治療で10%以上と報告されており、本研究よりも高くなっている。一方、無病生存期間の中央値は VNR+GEM の1報で6.0月と報告されている以外では3.5ヶ月以下であり、全生存期間も GEM+VNR で10-11月との報告がある以外6月程度に留まっている。</p> <p>安全性の面からは、有害事象は血液毒性(白血球、好中球、血小板減少)が Grade 3が21.3%に認められた。非血液毒性は嘔気、食欲不振、下痢、全身倦怠感等が認められたが、すべて Grade 2以下であった。すべての有害事象は対処療法で対応可能であった。</p> <p>これらの結果は MPM の2次治療における CPT-11/GEM 併用療法の有用性を示唆するものであり、Oncology 誌にて印刷中である。以上より、学位審査委員会は本論文は「課程による者の学位審査論文審査等に関する申合せ」第5条及び第7条に定める学位論文の要件を満たすものと考えた。</p>	